

“百年の信頼を、未来につなげる”

**株式会社鳥羽洋行
2024年3月期
決算説明会資料**

2024年5月13日(月)

- I . 2024年3月期決算について
- II . 2025年3月期の戦略及び見通し

I . 2024年3月期決算について

I. 2024年3月期決算について

2024年3月期の決算ハイライト

<国内売上高は前期横ばい、中国減収で連結売上高減少>

- ◆半導体及び半導体装置関連への販売は、情報通信技術の成長に伴い設備投資意欲が拡大傾向であったものの、メモリ半導体の需要が伸び悩み減少。
- ◆自動車・車載部品業界への販売は、自動車生産台数の回復や電池関連の設備投資が底堅く推移し、前年を上回る。
- ◆ロボット等FA機器の販売は、労働力不足による自動化の流れで好調を維持。
- ◆中国は景気停滞の影響を受け、主力得意先へのロボット等の販売が低迷。

<売上高の減少に伴い、営業利益、経常利益、純利益ともに減少>

- ◆減収により売上総利益は前期比1.5%減、売上総利益率については0.4 P 増。
- ◆販売管理費は、将来に向けた積極投資（基幹システム更新、営業活動の増加、人材投資、M&A等）により、前期比4.2%増。

<2社の全株式を取得（連結子会社化）>

- ◆事業拡大に向け、理化学系商社2社を連結子会社化。

I. 2024年3月期決算について

< 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

	23/3月期	24/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	29,482	28,449	△3.5%	
営 業 利 益	1,694	1,514	△10.6%	・売上総利益率は15.3%と、+0.4 P ・販管費は前期比+4.2%
営 業 利 益 率	5.7%	5.3%		
経 常 利 益	1,800	1,618	△10.1%	
経 常 利 益 率	6.1%	5.7%		
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,429	1,074	△24.8%	・前期は特別利益に有価証券売却益 297百万円計上
当 期 純 利 益 率	4.8%	3.8%		

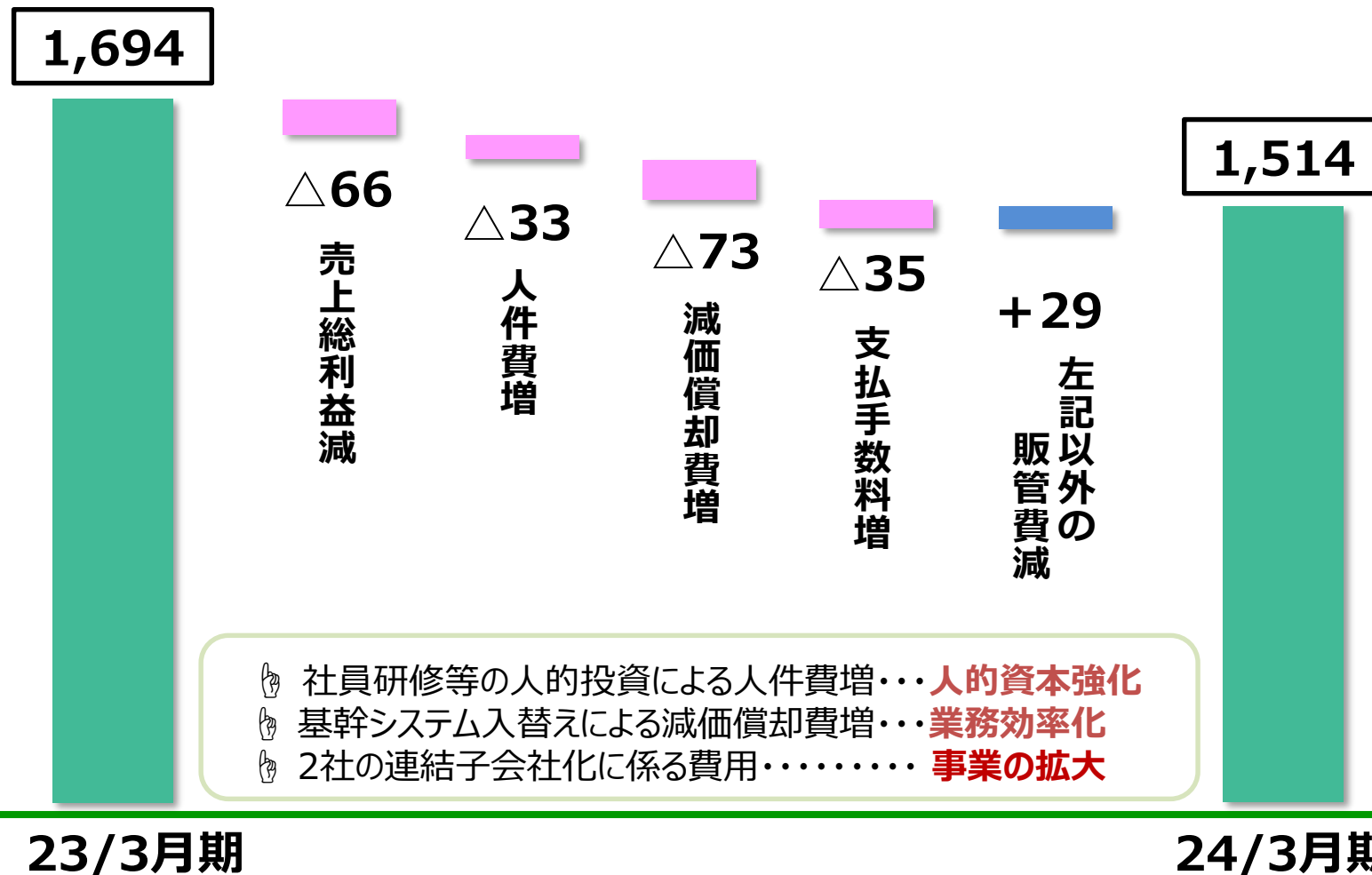
Point !

- 国内売上高は前年から横ばい。連結対象である中国の子会社が大幅減収となり、連結売上高は 3.5%減。
- 販売管理費増により利益減。

I. 2024年3月期決算について

<連結営業利益増減分析>

(単位：百万円)

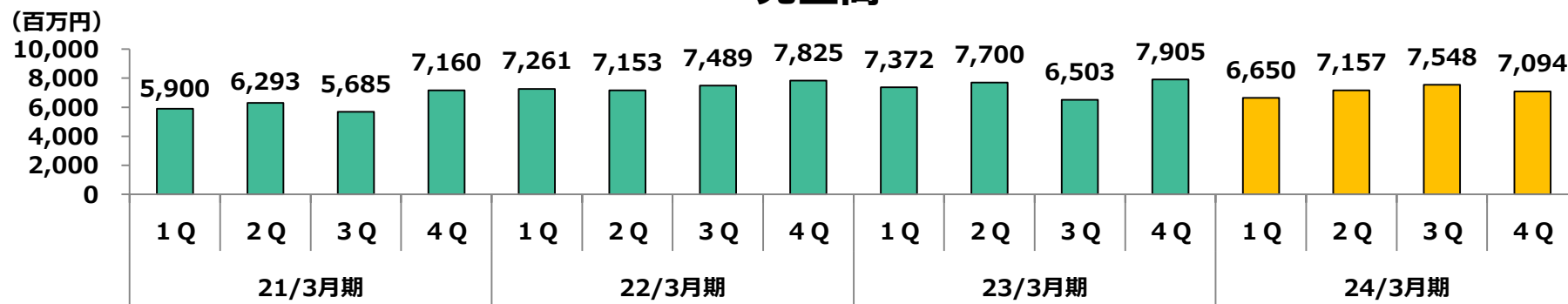


※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

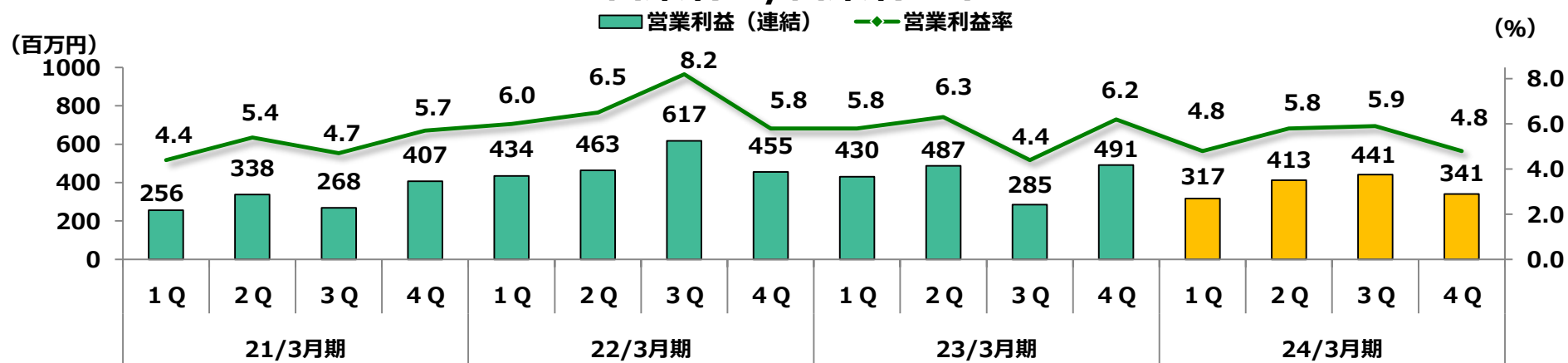
I. 2024年3月期決算について

＜四半期毎の売上高・営業利益（連結）の推移＞

売上高



営業利益/営業利益率



Point !

売上高 : 今期3Qは、自動化システム等大口案件により増収。

営業利益 : 今期1Q及び4Qは、半導体関連得意先の売上減と経費支出増により減収。

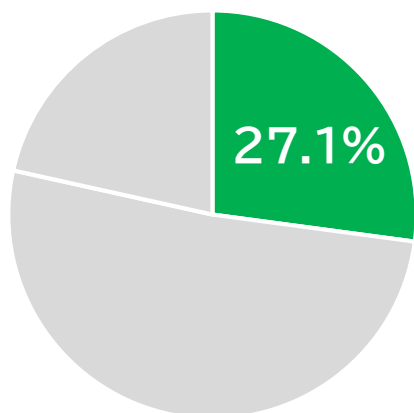
I. 2024年3月期決算について

<部門別実績>

制御機器

連結売上高

77億15百万円



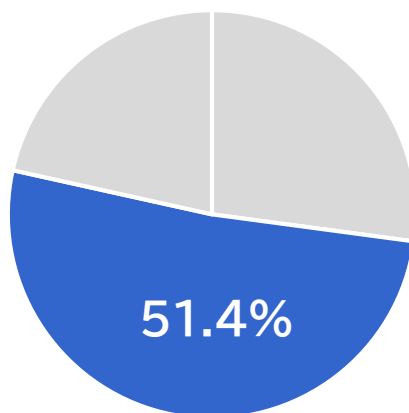
得意先の業種

デジタル機器/半導体・液晶製造装置/基盤実装機/自動車・車載部品/工作機械等

FA機器

連結売上高

146億9百万円



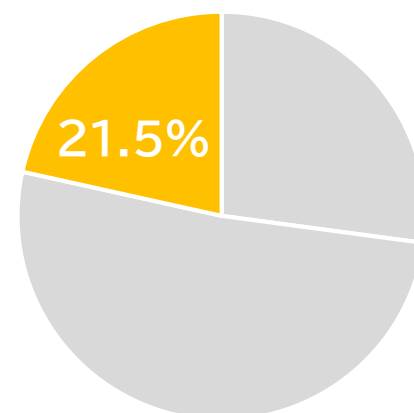
得意先の業種

デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/OA機器/医療機器/食品機器等

産業機器

連結売上高

61億25百万円



得意先の業種

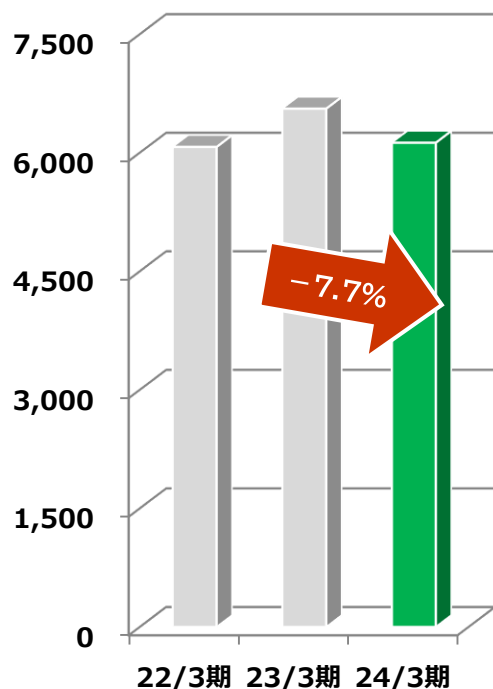
デジタル機器/自動車・車載部品/半導体・液晶製造装置/精密機器等

I. 2024年3月期決算について

<部門別連結売上高推移>

制御機器

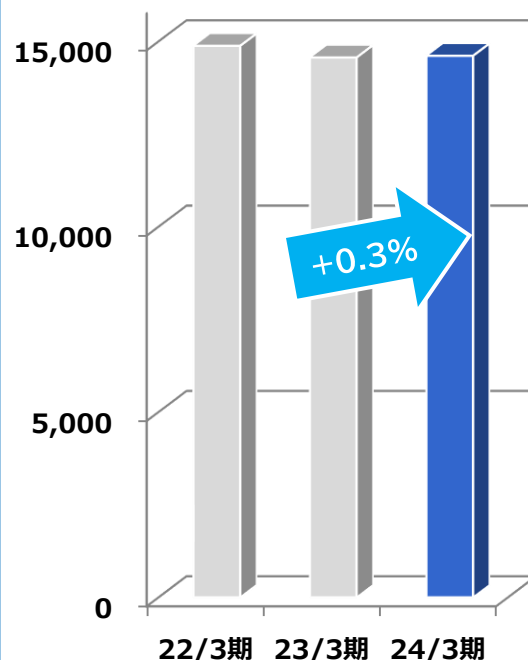
(百万円)



精密機器関連の得意先への販売は好調であったものの、半導体製造装置や電子部品関連の得意先向けの販売が伸び悩む。

FA機器

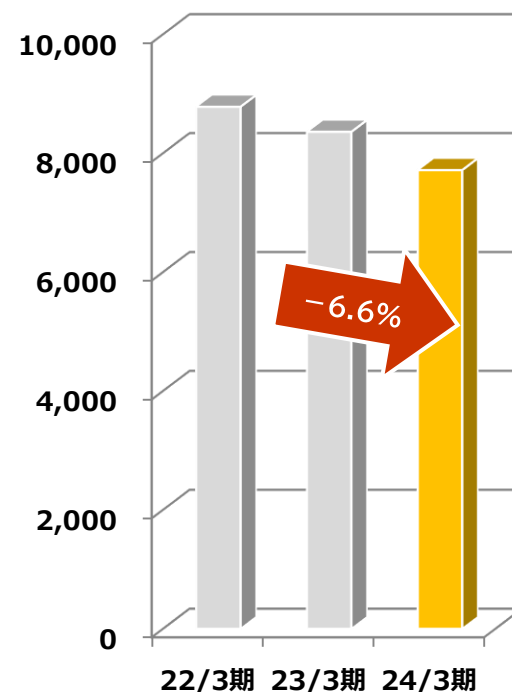
(百万円)



中国でのロボット販売は苦戦を強いられたものの、国内販売は車載部品関連得意先を中心に販売は好調に推移。

産業機器

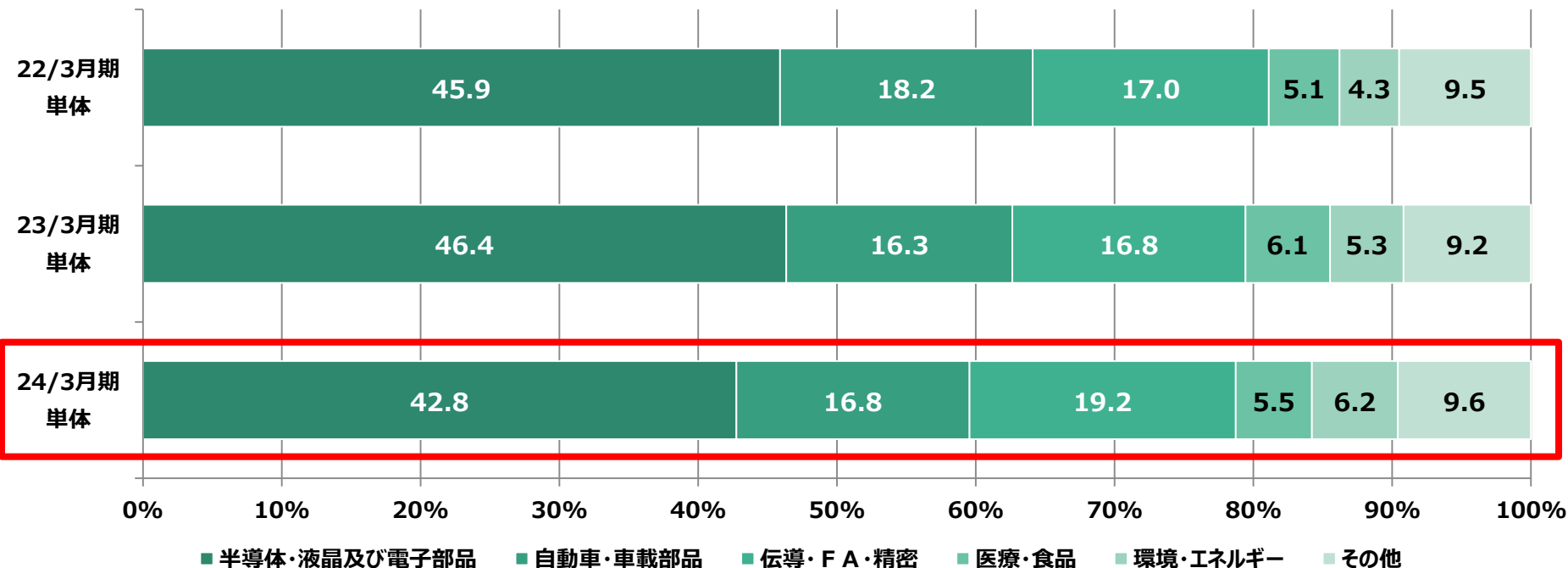
(百万円)



メモリ半導体の需要回復が遅れた影響により、半導体関連で 사용되는ろ過フィルターの販売が前年を下回る。

I. 2024年3月期決算について

＜業種別売上構成比（単体）推移＞



＜半導体・液晶及び電子部品＞

足元のメモリ半導体関連の需要が伸び悩み減少。（前期比△3.6 P）

＜自動車・車載部品＞

自動車生産台数の回復と電池関連設備投資が底堅く推移。（前期比＋0.5 P）

＜電動・FA・精密/環境・エネルギー＞

生産現場の国内回帰により、精密機器関連向けの販売増加。（前期比＋3.3 P）

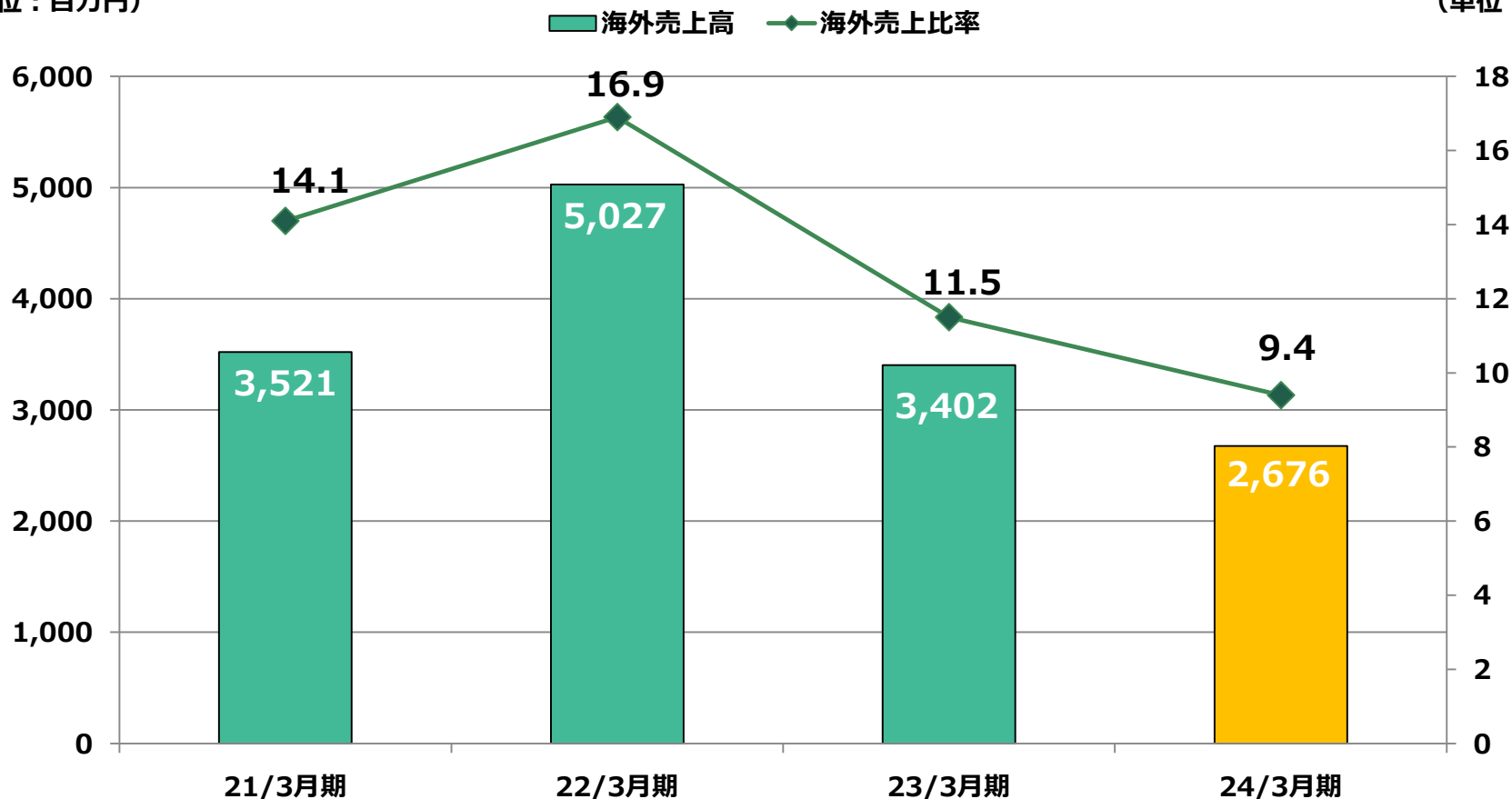
Point !

I. 2024年3月期決算について

<海外売上高・海外売上比率（連結）>

（単位：百万円）

（単位：%）



Point !

長引く中国の景気低迷により設備投資需要が低迷し、スマートフォン関連の主要得意先へのロボット販売が大きく減少。

I. 2024年3月期決算について

< 連結貸借対照表の概要 >

(単位：百万円)

	23/3月末	構成比 (%)	24/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	22,595	77.6	24,596	76.6	
現金・預金	11,012	37.8	12,648	39.4	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	11,084	38.0	11,387	35.4	
商品	363	1.2	351	1.1	
固定資産	6,528	22.4	7,527	23.4	のれん328百万円の計上
資産合計	29,124	100.0	32,124	100.0	
流動負債	8,920	30.6	11,053	34.4	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	8,099	27.8	9,868	30.7	
固定負債	403	1.4	580	1.8	
負債合計	9,324	32.0	11,633	36.2	
純資産合計	19,799	68.0	20,491	63.8	
負債純資産合計	29,124	100.0	32,124	100.0	

Point !

構成比に大きな変化はございません。

I. 2024年3月期決算について

<連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(単位：百万円)

	23/3月期	24/3月期	2024年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	1,229	2,742	・税金等調整前当期純利益の計上（+1,613百万円） ・減価償却費（+154百万円） ・仕入債務の増加（+1,412百万円） ・法人税等の支払（△589百万円）
投資活動によるC F	69	688	・定期預金の払戻（+1,000百万円） ・有形、無形固定資産の取得（△202百万円） ・子会社株式の取得（△108百万円）
財務活動によるC F	△910	△843	・自己株式の取得（△348百万円） ・配当金の支払（△494百万円）
現金及び現金同等物 に係る換算差額	23	47	
現金及び現金同等物 の増減額	411	2,635	
現金及び現金同等物 の期首残高	9,600	10,012	
現金及び現金同等物 の期末残高	10,012	12,648	

I. 2024年3月期決算について

<中期経営計画「Next Stage 2026」について>

経営理念を軸とし、中期経営計画を策定し、事業活動を通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

(単位:百万円)

	計画		
	第75期 (2024年3月期)	第76期 (2025年3月期)	第77期 (2026年3月期)
売上高	30,000	33,000	36,000
営業利益	1,800	2,060	2,280
経常利益	1,900	2,160	2,380
当期純利益	1,290	1,480	1,630

Point !

- 75期は未達成。
- 新たに2025年～2027年の3ヶ年計画を2024年8月にリリース

※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。



株式
会社

鳥羽洋行

Ⅱ． 2025年3月期の戦略及び見通し



Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

<2025年3月期の市場環境予想>

◆ 半導体関連

生成AI・5G等の情報通信技術に係る設備投資、自動車向けパワー半導体の需要は底堅く推移する見込みではあるが、メモリ半導体需要の回復状況により左右される状況。

◆ 自動車・車載部品業界

自動車生産台数の回復やEV・HVの車載電池の需要増加により、自動車・車載部品関連の生産設備向けの売上が好調に推移する見通し。

◆ 自動化システム

生産現場における労働力不足を補う自動化システム案件は増加傾向にあり、ロボットやFA機器の販売は好調に推移する見込み。

◆ 環境負荷低減商材

カーボンニュートラルに向けた取組みが拡大する中で、CO2排出量削減効果の高い商材の発掘、拡販により他社との差別化と企業価値の向上を目指す。

◆ M&A(事業の多角化)、国内営業所の拡充

理化学系商社2社の連結子会社化による事業拡大。

四日市営業所を新設し、国内全23拠点に拡大。新規顧客開拓及び細やかなサービスの提供を展開。

Ⅱ. 2025年3月期の戦略及び見通し

<2025年3月期の戦略>



1

次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成

- ・各種展示会の来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・M&Aによる事業提携、互いの強みを活かした販売網の拡大

2

新商材発掘（SDGs/環境や人にやさしい商品）

- ・環境負荷や労働負荷を低減できる新たな商材の発掘

3

装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化機器とロボットの販売強化

4

技術商社としての存在価値強化 ～ブランド強化～

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業の推進
- ・国内営業所の新規開設
- ・積極的な展示会への出展

5

海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討



株式
会社

鳥羽洋行

Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

1 次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成

<株式の取得（連結子会社化）について>

2024年1月31日、株式会社和泉テック及び株式会社和泉テクニカル・ラボの2社の全株式を取得し、連結子会社化いたしました。

当社グループと株式会社和泉テック及び株式会社和泉テクニカル・ラボは、得意とする販売先の業界及び業種が異なることから相互補完関係にあり、互いの保有する優れた商材と販売ノウハウを共有することで、当社グループの持続的な成長につなげてまいります。

■ 株式会社 和泉テック

■ 株式会社 和泉テクニカル・ラボ

宮城県仙台市泉区市名坂字御釜田143-4

大学研究機関を中心に理化学機械器具の受託販売、研究の受託及び測定機器の開発、製造を行っており、長年業界に特化したノウハウを活かした営業活動を展開しております。



Ⅱ. 2025年3月期の戦略及び見通し

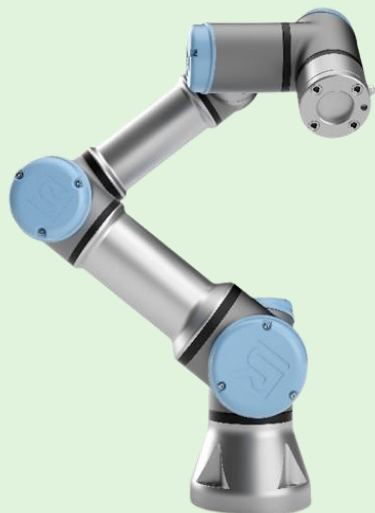
2

新商材発掘（SDGs/環境や人にやさしい商品）

～ 人にやさしい商品 ～

協働ロボットとは、本体に安全センサーを組み込むなど、**人に対する安全性を確保**できるようになったロボットです。特別な安全対策を講じる必要が少なく、**作業者のすぐ近くで使用できる**ことから、導入の幅が広がっております。

ユニバーサルロボット
UReシリーズ



カワダロボティクス(株)
NEXTAGE



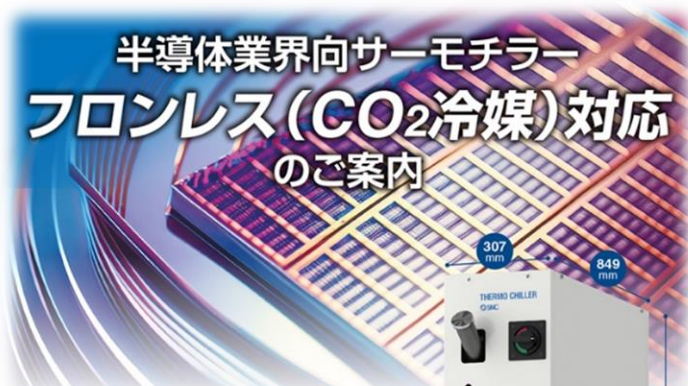
Ⅱ. 2025年3月期の戦略及び見通し

2

新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

～環境にやさしい商品～

SMC(株) フロンレス対応サーモチラーとは、冷媒に従来のフッ素化ガスではなく、CO₂(二酸化炭素)を用いており、低いGWP値(地球温暖化係数)を実現した、**環境にやさしい商品**です。フロン回収と廃棄コストも不要になります。サーモチラーは半導体製造工程において、冷却により、ウェハーを熱から守る重要な役割を果たします。



GWP:1
(自然冷媒)

EU冷媒規制:
GWP150以下*
米国冷媒規制:
GWP700以下*
カリフォルニア州冷媒規制:
GWP750以下
※2023年12月現在

空輸可能

使用冷媒が無毒
かつ不燃性*につき
空輸制限なし
※A1 (ASHRAE34規格)

**フットプリント
21%削減***

スリム設計により効率的な
チラー配置可能
※当社比

作業性向上

フロントから循環液の補充が可能

**フロン管理
工数ゼロ**

フロン排出抑制法に基づく簡易点検不要

**フロン回収&
廃棄コストゼロ**

フロンの回収/廃棄コスト不要



～トピック～

この度 当社はSMC株式会社様より、栄誉ある「エリートパートナー代理店」として認定されました。
今後も人や環境にやさしい商品の販売に貢献します。



Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

3 装置ビジネスの更なる販売強化

<単品販売からトータルソリューションの提供へ>

当社の「**あるべき姿**」を求め、激変する多様な課題に対応
自動化の流れに対応した装置ビジネスの更なる販売強化を推進



自動化システム・ロボットシステム
“FA PLANNER TOBA”

気候変動等環境問題	労働人口の減少
CO ₂ 排出量低減商品の提供	ロボットの提案による省人化 自動化システムの提案
人材の確保・育成	サステナビリティ経営
システムエンジニアリング強化 各種技能資格等の取得推進	[E] 気候変動への対応 [S] 人的資本経営 [G] 非財務情報の積極開示

Ⅱ. 2025年3月期の戦略及び見通し

4

技術商社としての存在価値強化 ～ブランド強化～

<国内営業所の新規開設>

西日本ブロック

滋賀営業所
大阪営業所
兵庫営業所
広島営業所
福岡営業所
大分営業所

関東ブロック

茨城営業所
千葉営業所
東京営業所
東京南営業所
八王子営業所
厚木営業所
甲府営業所

北関東ブロック

青森営業所
仙台営業所
宇都宮営業所
前橋営業所
熊谷営業所
川越営業所

本 社

営業本部・管理本部
特機システム部
海外事業グループ
仕入グループ

中部ブロック

松本営業所
静岡営業所
名古屋営業所

四日市営業所 ※2024年4月開設

国内**23ヶ所**の営業拠点

全国各地に拠点を設置し、
徹底したサポート体制を実現。



株式
会社

鳥羽洋行

Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

4

技術商社としての存在価値強化 ～ブランド強化～

＜選ばれる商社となるために＞

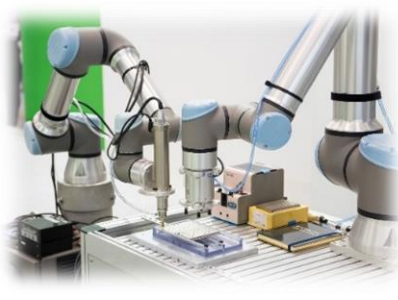
各メーカー様との複合展、ミニ展、セミナーの開催、デモ機の有効活用
営業担当者個々のスキルアップ

＜大型展示会への積極出展＞

- 2024年 7月24日～26日
協働ロボット利活用展（東京ビックサイト）
- 2024年 8月
東北地区にて協働ロボット関連の展示会を開催予定
- 2024年 10月2日～4日
関西機械要素技術展（インテックス大阪）



昨年の展示会場ブースの様子



◀▲各種協働ロボット デモ実演



◀電動キャスター デモ実演



株式
会社

鳥羽洋行

Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

5 海外拠点との連携強化

国外5ヶ所の営業拠点

中国

鳥羽（上海）貿易有限公司（2008年）
（同公司）深圳分公司（2011年）
（同公司）蘇州分公司（2014年）

ベトナム

TOBA,INC. (VIETNAM) CO.,LTD（2020年）

タイ

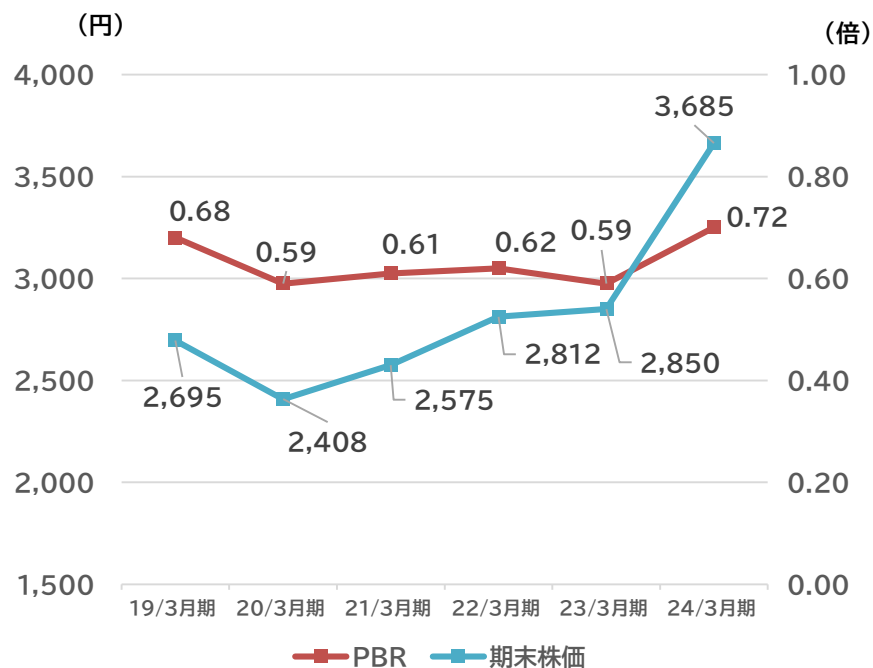
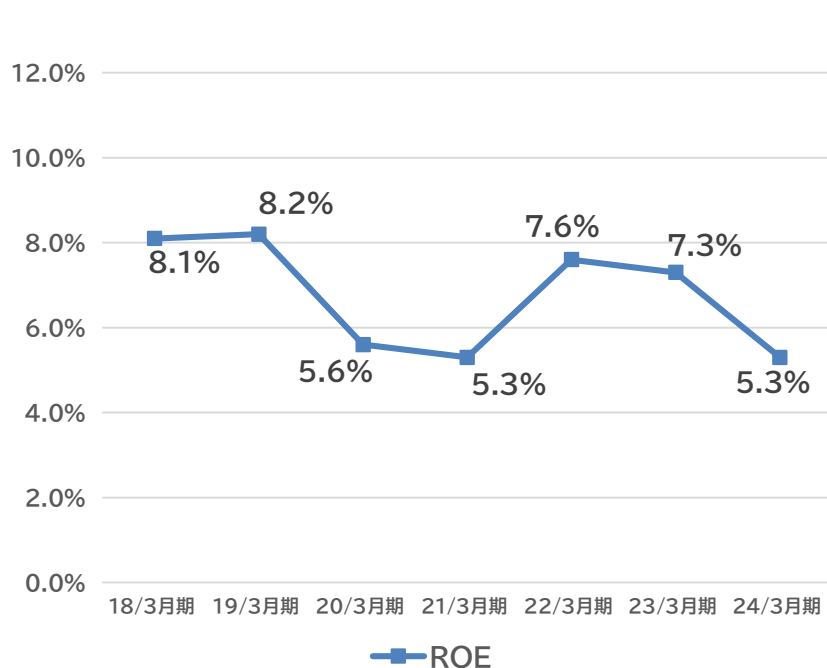
TOBA（THAILAND）CO.,LTD.（2012年）



Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

<当社経営指標の推移>

～ 当社目標値 ROE 8.0% / PBR 1倍以上～



売上高	営業利益	株価 (24/3月末)	年間配当 (予定)	配当性向 (予定)	配当利回り (予定)	ROE 自己資本利益率	PER 株価収益率	PBR 株価純資産倍率
284億円	15億円	3,685円	120円	45.3%	3.3%	5.3%	13.9倍	0.72倍

※上記表の数値は、2024年3月末時点の株価で算出しております。



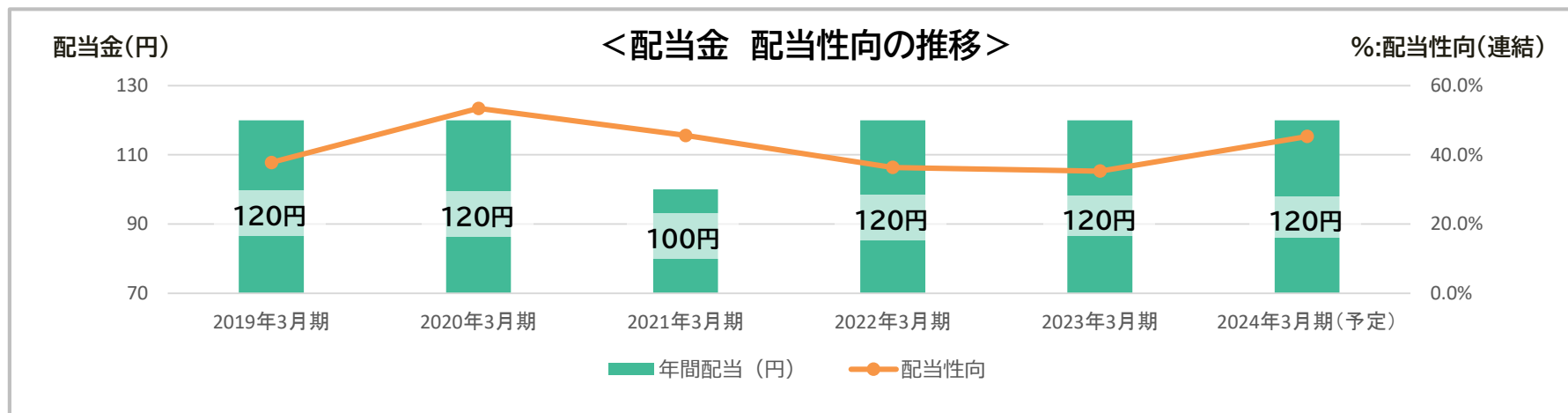
株式
会社

鳥羽洋行

Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

<株主還元について>

- ◆ 配当方針:長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする
- ◆ 自己株式の取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応



<自己株式の取得状況>

実施時期	取得株式数	取得単価	取 得 額	発行済み株式総数 に対する割合
2021年11月	70,000株	2,561円	179百万円	1.4%
2022年2月	50,000株	2,780円	139百万円	1.0%
2022年11月	145,000株	2,750円	398百万円	3.1%
2023年5月	33,800株	2,940円	99百万円	0.7%
2023年11月	80,000株	3,115円	249百万円	1.7%

Ⅱ．2025年3月期の戦略及び見通し

＜2025年3月期の業績予想＞

(単位：百万円)

	24/3月期 (実績)	25/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	28,449	31,000	9.0%
営業利益	1,514	1,950	28.7%
営業利益率	5.3%	6.3%	1.0 P
経常利益	1,618	2,040	26.1%
経常利益率	5.7%	6.6%	0.9 P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,074	1,380	28.4%
当期純利益率	3.8%	4.5%	0.7 P

この資料には、2024年5月10日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではありません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道 2 丁目 8 番 6 号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp



株式
会社

鳥羽洋行